

「身近な技術のはなし」(3)

日時/2008.11.16 10:00 ~
会場/米沢市理科研修センター

主催 山形大学工学部 (担当技術部)
共催 米沢市教育委員会
後援 学園都市推進協議会

山形大学工学部技術部職員による学外講演会「身近な技術のはなし」も3回目を迎え、今年も米沢市理科研修センターにて開催しました。

本企画は、大学技術職員の仕事の一端を学外の方々に知って頂き、地域との連携を図る機会づくりと技術職員自身の貢献度を高めるための自主的研修としての試みでもあります。

今回も米沢市教育委員会の共催と学園都市推進協議会よりの補助金をいただき実施いたしました。

講演者

田村 恒一 (機器開発技術室)

羽賀 惠壽 (計測技術室)

実行委員

菊地 新一 (統括技術長)

水沼 充 (計測技術室)

大橋 栄市 (機器開発技術室)

記録協力

中島 孝則 (情報技術室)



山形大学工学部 技術部職員 による
「身近な技術のはなし」(3)

期日 平成20年11月16日(日) 10:00~12:00
会場 理科研修センター (置賜文化センター4階)
対象 小中学校教員 および 一般市民 (定員30名)
受講無料

はなしのタイトル
「米沢の風向、風速、降雪の特徴観察に基づく落雪事故抑止の一方法」
田村 恒一 技術専門職員 (機器開発技術室担当)

「米沢市内の融雪道路」
羽賀 惠壽 技術専門職員 (計測技術室担当)

主催 山形大学工学部
共催 米沢市教育委員会
後援 学園都市推進協議会



『米沢の風向、風速、降雪の特徴観察に 基づく落雪事故抑止の一方法』

田村 恒一 技術専門職員（機器開発技術室技術長）

身近でクリーンな自然エネルギーの一つである風力を利用した小型簡易発電機に雪庇生成阻止機能についての考慮を行い、実証実験によって収集した基礎データをもとに、豪雪地域の冬場の人身事故防止に役立てるための検討結果について紹介する。

観測および実験は、平成19年から20年にかけての冬季に実施したが、風向、風速の測定データと降雪状況の観察、市内の屋根の積雪状況の写真を組み合わせて、分かり易く説明を行う。

本研究の一部は、平成19年度 科学研究費（奨励研究）（課題番号 19918026）の助成を受けて実施した。



『米沢市内の融雪道路』

羽賀 恵壽 技術専門職員（計測技術室技術長）

ここ米沢は豪雪地帯にあり、10月末から12月初めにかけて雪囲い作業する風景がみられるようになる。降雪期に入ると除雪機とともに、幹線道路に設置された散水式融雪道路が稼働し、市内の交通網が確保される。しかしながら、散水式融雪道路は過度の地下水揚水のため、設置されている一部地域の地下水位低下や地盤沈下の弊害をもたらしている。このような弊害を起こさない融雪システムが、米沢市内の公道にいくつか設置され、身近に体験できるようになってきている。

講演者の所属した研究室で進められてきた無散水融雪道路システムと、ここ20数年の間に市内の公道に設置された無散水融雪道路のシステムを分かり易く紹介する。

講演者は本研究に関連して、昭和60年～平成17年度にわたり、科学研究費（奨励研究）に合計10回採択されている。

